

大崎上島町、定住促進に力

高校生グッズ製作で協力

都市圏から島に移り住んでもらおうと、大崎上島町が取り組みを強めている。近くI、Uターン者を東京である定住フェアに派遣、暮らしやすいさをPRしてもらおう。これまで「お試し移住」できる町営住宅を整備、実際に定住に結び付くなど徐々に成果も出ている。

(山下悟史)

フェアは7月18日、東京であり、30〜70代の3人が「特使」となる。古民家再生、住民や観光客との交流拠点の運営、子どもの学習指導といった個々の活動を紹介するほか、島の住環境について語ってもらう。町職員も同行し、空き家や分譲地の情報を提供する。

会場を訪れた人には、バッグに入れた町の紹介資料を渡す。バッグのデザインは同町にある唯一の高校、大崎海星高の生徒が担当。クリアファイルや缶マグネットの図柄も生徒が

手掛ける。今月下旬の完成を目指す。

3年村上南那さん(17)は「大崎上島に興味を持ってもらえないうっかりしたい」と意気込んでいる。

同町の人口は5月末で7983人。この10年で約1500人減った。高齢化率も県内の市町で最も高い46・75%。このため町は近年、移住者増加に向けたさまざまな施策を展開してきた。2013年度は、移住を検討する人が短期間住んでみる町営住宅を整備、利用者のうち4家族8人が定住を決めた。

この8人を含めて、ここ3年で60人以上が移り住んでおり、町はこれからもさまざまな工夫をしていきたいとしている。

東京に移住者派遣しPR



バッグなどのデザインを考える生徒たち



フェアは7月18日、東京であり、30〜70代の3人が「特使」となる。古民家再生、住民や観光客との交流拠点の運営、子どもの学習指導といった個々の活動を紹介するほか、島の住環境について語ってもらう。町職員も同行し、空き家や分譲地の情報を提供する。

会場を訪れた人には、バッグに入れた町の紹介資料を渡す。バッグのデザインは同町にある唯一の高校、大崎海星高の生徒が担当。クリアファイルや缶マグネットの図柄も生徒が

この8人を含めて、ここ3年で60人以上が移り住んでおり、町はこれからもさまざまな工夫をしていきたいとしている。